産婦人科専門医プログラム

定員 7名

プログラム責任者
産婦人科学講座
寺田　幸弘 教授

専門研修担当者連絡先	三浦　広志　准教授 TEL.018-884-6163　FAX.018-884-6447 E-mail　miurah@doc.med.akita-u.ac.jp HP　https://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/

プログラムの特徴

秋田大学産婦人科専門医プログラムでは秋田大学医学部附属病院を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導に責任もって取り組んでいます。

大学病院においては、一般市中病院では経験しにくい最重症度の患者に対する最新の標準治療を経験していただきます。3年間の研修期間のうち少なくとも6ヶ月間は基幹施設での研修が必要となります。

各連携施設にはそれぞれ得意とする産婦人科診療領域があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートすることで生殖医療、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケアの4領域をバランスよく研修する事が可能となります。

プログラムの説明

専攻医の研修期間は3年間です。研修修了年の翌年度（通常専攻医研修の4年目）に産婦人科専門医試験を受験することになります。研修修了には実地経験目録（分娩150例以上、単純子宮全摘出術執刀10例以上など）、症例レポート、症例記録、学会・研究会の出席・発表、学術論文などが必要になります。詳細は当科ホームページ（http://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/skp04.html）をご参照ください。

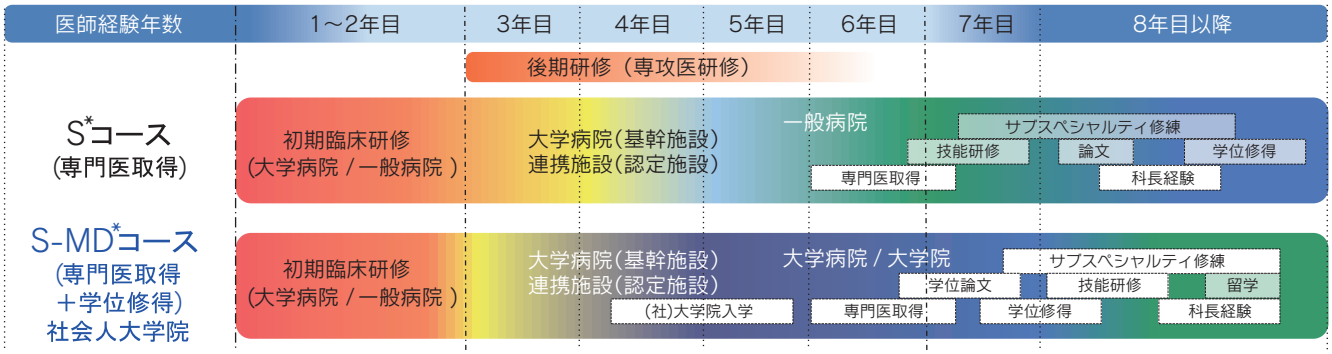
研修は基幹施設である秋田大学医学部附属病院ならびに秋田県内の連携施設にて行います。大学病院においては、婦人科悪性腫瘍、腹腔鏡下手術、合併症妊娠や胎児異常、産科救急そして体外受精を中心とした高度生殖医療を中心に研修していただきます。一方、連携施設においては、一般婦人科疾患、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理および不妊症の診断、検査などを中心に研修していただきます。外来および入院診療において、治療方針の立案、実際の治療、退院まで、指導医の助言を得ながら自ら主体的に行う研修となります。

連携施設は以下の11施設です。

能代厚生医療センター、北秋田市民病院、秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、中通総合病院、秋田赤十字病院、大曲厚生医療センター、平鹿総合病院、由利組合総合病院、市立横手病院、市立角館総合病院。

基幹病院である大学病院を中心として、これらの連携施設をローテートすることで産婦人科のすべての領域をバランスよく研修することが可能となり、また修了要件を満たすのに十分な症例数を経験することができます。連携施設での研修は1年毎のローテーションを基本としていますが、諸状況により個々に最善のプログラムを作成していきます。

■取得までのキャリアパス



S*:Specialist（専門医）
MD*:Medical Doctor（博士）

◆主要なサブスペシャルティ：周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医